



鎌倉交響楽団 1999 ニューイヤーコンサート

99年1月16日(土)午後2時半開演

鎌倉芸術館
後援 鎌倉市教育委員会

〔写真提供〕 オーストリア政府観光局

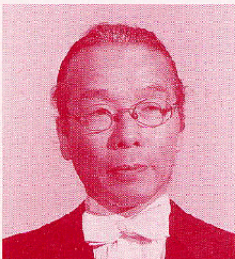
◎プログラム◎

- ヨハン・シュトラウスⅡ 喜歌劇「こうもり」序曲
 W.A.モーツァルト 交響曲 第41番ハ長調 K.551「ジュピター」
 第1楽章 Allegro vivace
 第2楽章 Andante cantabile
 第3楽章 Menuetto. Allegretto-Trio
 第4楽章 Molto Allegro

..... ◇ 休 憩 ◇

- ヨハン・シュトラウスⅡ ワルツ 春の声 作品410
 ——インスタントコンダクターのコーナー 「？」——
 ヨハン・シュトラウスⅡ 常動曲 作品257（音楽の戯れ）
 ヨーゼフ・シュトラウス かじ屋のポルカ 作品269
 ヨハン・シュトラウスⅡ エジプト行進曲 作品335
 ワルツ ウィーンの森の物語 作品325

出演者プロフィール



指揮：大川内 弘（おおこうち ひろし）

1943年東京生まれ。東京芸術大学卒業後、東京都交響樂團を経て現在、日本フィルハーモニー交響樂團のコンサートマスターを務めている。

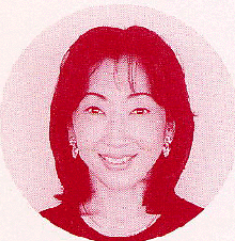
1977年、文化庁派遣在外研修員として英国に留学。ロンドン・チェンバース・レイヤーズのコンサートマスター兼指揮者として、ヨーロッパ・南アメリカ等で演奏旅行した後、ロンドンでデビューリサイタルを開く。

1980年、帰国して日本フィルに復帰。また、大川内弘弦楽四重奏団のリーダーとして、室内楽やソロの分野でも各地のコンサート・放送等に招かれている。

1991年、アメリカ・メイン州アーカディー音楽祭に招かれる。日本フィル、東京交響樂團、新星日本交響樂團、東京シティフィルハーモニック等と共演。

近年、その経験を生かし、指揮の分野に活動の範囲を広げる。渡辺暁雄、ロンドン・ギルドホール音楽院でブライアン・ライト、ニース音楽院でクワトロッキの諸氏に師事。慶応ワグネルソサエティーオーケストラ、津田塾大学オーケストラ、筑波大学管弦樂團、日本フィル室内樂團等を指揮する。

ウライタナル合奏団、虎の門交響樂團の常任指揮者を務めている。日本大学芸術学部研究所教授、東京芸術大学講師。



司会：永井 邦子（ながい くにこ）

武蔵野音楽大短大卒。NHK横浜放送局・ラジオ日本でアシスタント・キャスターを、また神奈川フィルハーモニー・群馬交響樂團・鎌倉交響樂團などプロ・アマのオーケストラの司会、各種シンポジウムの司会を務めている。

■今回の演奏会にあたり大野 守、高山泰利の両先生にもご指導いただきました。

●第26回録音室内楽演奏会 3月13日（土）2時開演 鎌倉中央公民館 入場無料

●第73回定期演奏会 5月23日（日）鎌倉芸術館 指揮 古谷誠一 入場料1000円近日発売

ブラームス バイオリンとチェロのための二重協奏曲／チャイコフスキー 交響曲第4番 他

プログラム・ガイド

*「こうもり」序曲

「こうもり」は、すでにワルツで名を馳せていたシュトラウスⅡ世が1873年に書いたオペレッタ（喜歌劇）です。19世紀ウィーンの上流社会を、風刺のきいたせりふや当時流行の舞曲を織りまぜて描き、ウィーンのみならずヨーロッパ各地で大好評を博しました。現在も年末年始に上演されることが多い人気演目です。

内容は、アイゼンシュタイン男爵の屋敷や舞踏会場、監獄を舞台にした人違い騒動や恋の駆け引きで、この騒ぎは、以前舞踏会でこのまりの仮装のまま酔って男爵に置き去りにされ、「こうもり博士」と人々に笑われたフェルケ博士が仕組んだ仕返しだった、というものです。

序曲はシャンパンをあける音で華々しく始まり、劇中の様々な場面の美しいメロディが次々と現れ、このオペレッタの明るい楽しさが詰め込まれています。

*交響曲第41番「ジュピター」

モーツァルトは8歳で初めての交響曲を作るという天才ぶりを発揮し、32歳のとき最後の交響曲第41番を作りました。悲痛な情感を持つ第40番とは対照的に明るく堂々とした響きで、均整のとれた美しさはまさに古典交響曲の最高峰です。ジュピターとはギリシア神話の最高神ゼウスの英語名です。この神は美しい女性に弱く恐妻家といった人間的な面と、天地の動きや運命を意のままに操る威厳を合わせ持ち、世界に君臨する魅力的な神です。

「ジュピター」と名付けたのはモーツァルト本人ではありませんが、この曲の持つ壮麗な雰囲気にはふさわしい命名と言えるでしょう。

*

後半は、今年で没後100年を迎える“ワルツ王”ヨハン・シュトラウスⅡ世の作品を中心にお送りします。

また今年は、彼の父親で「ラデツキー行進

曲」などの名曲を残した“ワルツの父”シュトラウスⅠ世の没後150年でもあります。酒場での音楽と踊りに芸術性を加え、独特な3拍子の動きを持つ“ウィнна・ワルツ”の基礎を作ったのが父、さらに発展させ数々の名曲を生み出したのが息子でした。この同名の親子は良きライバルでもあり、それぞれの楽団を持ち大衆の人気を二分していて、当時のウィーンでは毎晩「ワルツ合戦」ともいえる舞踏会三昧が繰り広げられたそうです。

ウィーンっ子たちのように夜ごと踊ってはいないにしても、音楽とお酒の席が好きなのは我々鎌響のメンバーも同じこと。本日はいつもの持ち味にプラスして、ウィーン風のしゃれた響きもお届けできるのでしょうか？

〈春の声〉 Ⅱ世58歳、ヨーロッパ各地の演奏旅行で次々と成功を収め、最後の恋にもめぐり会った時期の作品で、晴れやかなワルツです。

〈常動曲〉 産業革命による機械化が進んでいた当時の世相を反映した、1861年の作品。一定のリズムの中で、色々な楽器が次から次へと顔を出し、曲名が表すようにいつまでも繰り返せる楽譜になっています。

〈かじ屋のポルカ〉 シュトラウス家の次男、ヨーゼフの作品。父や兄と同じく楽才に恵まれ、技術者から兄の依頼で音楽家に転向し、アイデアに富んだ曲の数々で人気を得ました。かじ屋の仕事の音を取り入れた楽しい曲です。

〈エジプト行進曲〉 1869年エジプトにスエズ運河が開通し、祝典にオーストリア皇帝が参加したことにちなんだ作品。豪華で神秘的なファラオの行列が近づいてきて、また遠ざかるのが見えるようではありませんか？

〈ウィーンの森の物語〉 演奏旅行を終えて久しぶりに故郷へ戻ったⅡ世が、改めてその美しさに感動して書いた作品。「最も完成されたワルツ」といわれています。彼の、ウィーンの人と自然への愛着がうかがわれます。

(Tp. 清水里美)

団員出演者名簿

常任指揮者 古 谷 誠 一

団長 日比谷平一郎

運営委員長 山 本 賢 二

インスペクター 芳 賀 節 子

コンサート・マスター 五 味 俊 哉

1st Violin	池田 真美 遠藤 勝智 大嶋 武也 桐本 圭三 ●五味 俊哉 白水 千品 ●高橋 けい子 高橋 良子 富岡 陽子 中村 順子 西村 靖之助 芳賀 節子 目黒 ゆりえ 山崎 さゆり	Viola	石河 由美 箴島 純子 ●澤田 淳也 清水 正義 田中 順子 田中 智康 柱本 理絵 畠中 正志 日比谷平一郎 三門 サカエ ●水 上 清 宮下 重美	Piccolo & Flute	菊竹 秀夫 曾根 美樹 高橋 弘子 ●古田 龍大	Trombone & Tuba	●日高 隆雄 深田 雅子 府川 創作 藤本 功 *煤孫 さえ子
				Oboc	小林 隆志 ●中橋 英純 山本 賢二	Percussion	*明村 直美 ●太田 純 蕨田 俊之 保田 稔美
				Clarinet	●鈴木 美緒 前沢 実 望月 俊哉 片山 真知子	Harp	☆杉山 肇
2nd Violin	青柳 由紀 ●有田 静 石橋 智子 井上 康男 宇多 綾子 小沢 礼子 川西 清美 ●河原 寛 喜多 埜昇次 菅井 直介 鈴木 亜矢子 曾根 民子 永井 八郎 中橋 美木子 馬場 潔子 日高 理恵子 平野 京子	Cello	●飯田 達男 上田 和男 大熊 若菜 大庭 伸仁 小野 光子 志村 篤子 鈴木 達広 中井 良樹 中野 太一朗 山田 由紀	Bassoon	●射場 俊郎 松木 祐子 三原 一真		●パートリーダー *団 友 ☆賛助出演
				Horn	芥川 敬 ●佐藤 仁樹 芳我 朋子 藤尾 正明 山崎 和之 山田 克彦		
		Bass	梅沢 定彦 大内 達郎 ●中村 安孝 福島 晋哉 矢野 健 渡辺 均	Trumpet	生沼 正博 ●清水 里美 津金 勝枝 福地 稔栄 森 久仁子		

録音団員募集

オーボエ
コントラバス
経験者歓迎

お問い合わせ

0467-25-3512

田中方

キャッシュコーナー営業時間は8:00~21:00
大船・鎌倉駅前支店ほか18店は平日深夜0時までです

SHONAN

街にいい風

湘南しんきん

<http://www.shinkin.co.jp/shonan>